

ビンナガ 北大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

2006年9月下旬のICCATのSCRS会合では、資源評価は実施せず、近年の漁業の変化をレビューし、提出論文の論議をした。2007年に予定の次回の資源評価では、これまでとは異なる手法の統合モデルで資源解析を試みることで各国が合意し、そのデータの準備を進めている。

生物学的特性

- 寿命: 10歳以上
- 成熟開始年齢: 5歳頃
- 産卵場: 西部では北緯25~30度で、中部から東部では北緯10~20度
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



利用・用途

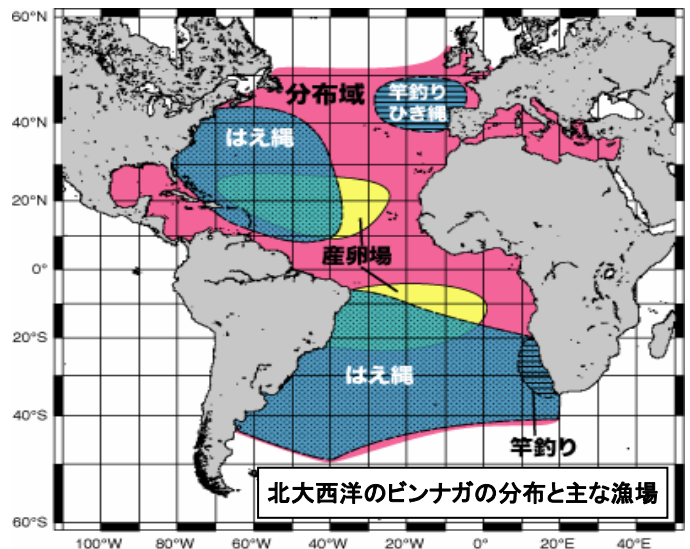
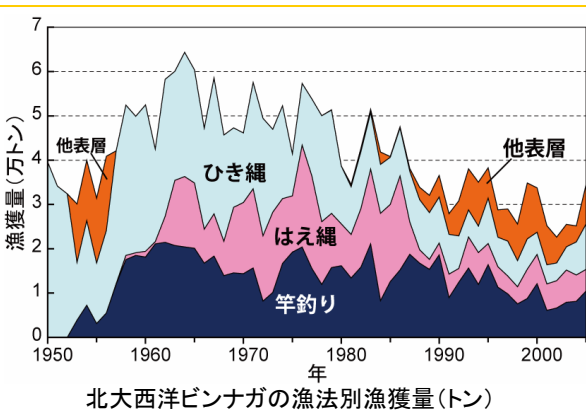
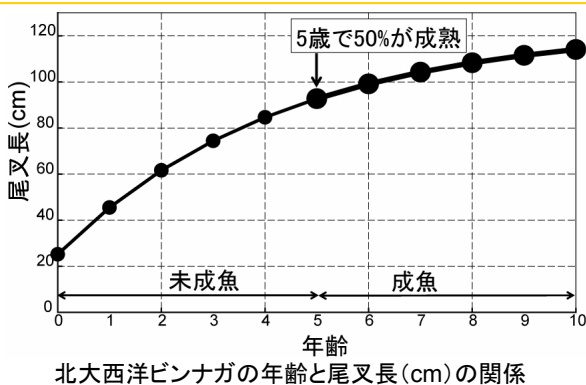
刺身や缶詰原料

漁獲の動向

本資源の年間総漁獲量は1960年代中頃(約6万トン)がピークで、徐々に減少した。その原因は主にひき縄、竿釣り及びはえ縄などの伝統的な漁法の努力量の減少である。漁獲量は1999~2002年にかなり減少し、2002年の2.3万トンは過去25年間で最低であった。その後、表層漁業の漁獲増から、2004年に2.5万トン、2005年には3.4万トンと回復した。

漁業の特徴

北大西洋のビンナガは、ビスケー湾周辺の海域でスペインのひき縄及び竿釣り、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣り、で古くから漁獲されてきた。1980年代後半から、新しい漁業として、流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲の総漁獲量に占める割合はあまり大きくなく、台湾が主に漁獲している。



資源状態

ICCAT ビンナガ資源評価会議(2003年)では、2000年の会議で行ったVPAによる資源評価の結果をそのまま用いることとした。

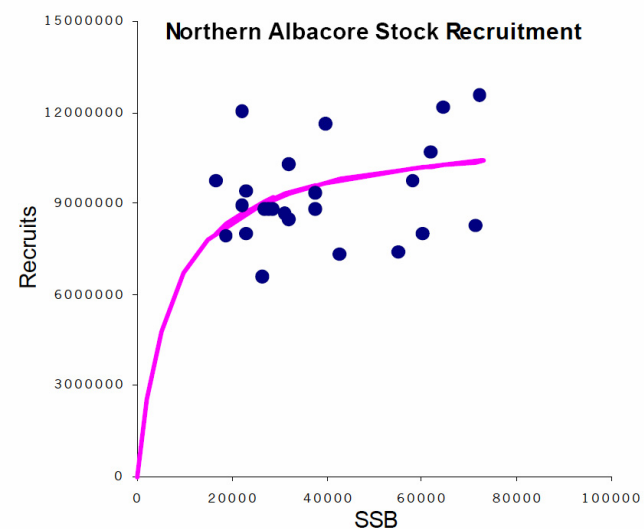
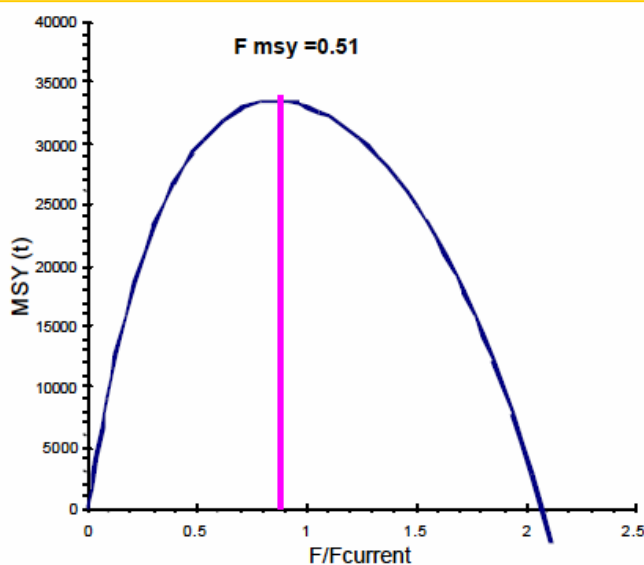
ある親子関係の仮定の下では、1999年の親魚量は2.9万トンと推定された。MSYを与えるレベルの親魚量は4.2万トンと推定されたことから、1999年の親魚量はそれよりも30%下回っていることになる。漁獲圧(漁獲が資源に与える影響)はMSYを与えるレベルを10%上回っていると推定された。なお親子関係の仮定を別のものに替えた場合、MSYの推定値が大きく変わった。

管理方策

2003年のICCAT行政官会議では、これまでのTAC 34,500トンが引き続き設定されることとなった。このTACは2000年の会議で設定されており、親魚量を維持するのに必要な上限の漁獲量(1999年時の漁獲水準)に由来する。そのほかに1998年の勧告によって開始された漁獲能力を1993~1995年の平均隻数に制限するという規制も引き続き継続されている。なお、日本については、漁獲量が大西洋全体におけるメバチの漁獲量の4%以下になるよう努力するという規制が課せられている。

資源評価まとめ

- 1999年の資源量はMSYを与えるレベルを30%下回っていた。
- 1999年の漁獲圧はMSYを与えるレベルを10%上回っていた。



VPAの結果を用いた平衡漁獲(上)と親子関係(下)

資源管理方策まとめ

- 2004~2006年のTACを34,500トンとし、国別クォータを設定。
- 漁獲能力(隻数)の制限。
- 日本にはビンナガの漁獲量を大西洋全体のはえ縄によるメバチ漁獲量の4%以下とする努力義務。

ビンナガ(北大西洋)の資源の現況(要約表)

| 資源水準 | 中位 |
|-------------------|------------------------|
| 資源動向 | 横ばい |
| 世界の漁獲量 (最近5年) | 2.3~3.4万トン 平均2.8万トン |
| 我が国の漁獲量 (最近5年) | 682~1,723トン 平均966トン |